

# 探検 レッカー会社 新進気鋭 訪問 *Wrecker Company Exploration*



## 株式会社 アムルック

埼玉県川口市領家 2-30-14 1F  
TEL.048-291-9904  
<http://amuruk.co.jp>

18年間 JAF でロードサービスを学び、4年前に独立し株式会社アムルックを設立した佐近岳紀氏。JAF で勤務していた時に感じたことを礎にし、普通車の積載搬送をメインに考えた事業を展開している。平均年齢約 30 歳と若いスタッフとともに会社全体がチームとなり、試行錯誤しながら日々の案件を 1 つ 1 つ丁寧にこなしている。



株式会社アムルック  
代表取締役  
佐近 岳紀氏

### CENTURY212

JAF が使用していた車両を譲り受けた 1 台。手頃なサイズ感で普通車のレッキングなどに丁度よいという。



### KYOKUTO

主に長距離搬送などで活躍し、帰路に向かう途中の SA などで仮眠が取れるようになっている。荷台幅も 2200mm とワイドなためスポーツカーなども積み込みやすい。

株式会社アムルックは埼玉県川口市を拠点とし、小型レッカー 2 台、積載車 4 台、サービスカー 1 台所有し、佐近社長含め全 6 名のスタッフで活動している。JAF の指定工場となり、案件のほとんどが JAF からの要請だ。埼玉をはじめ、東京や千葉などの JAF 指令センターから搬送要請が入ればすぐに駆けつけている。

元々は佐近社長は自動車整備の専門学校を卒業後、JAF に入社。東京を中心に様々なロードサービス基地に配属され、最終的には関東本部 RS 部勤務となっていた。幼い頃から父親が営む電気関係の

仕事を見ていたせいか、「いつかは独立して商売を」という夢を持ち続けていた。40 歳を目にした時、そのターニングポイントが訪れた。大きな団体でもある JAF としても佐近氏には居てもらわないとならない存在だった様だが、佐近氏が独立しても JAF の案件を第一に受けるという意思を示し、平成 26 年末に退職。佐近氏を慕っていた若手も同時期に退職し、一緒に開業へ向けて準備していく。まずは JAF の時に感じた積載車の重要性。大型車を請け負うには予算も経験値も少ないが、普通車案件をメインに考えると積載搬送がほとんどを占めるだろうと考えて

いた。しかし、中古車の積載車は距離を走っており、なかなか良い出物がなかった。オークションやネットで情報を収集し、未使用車が出たと聞けば気仙沼や兵庫などへ駆けつけその場で契約し乗って帰ってきたという。

JAF から出されていた要請条件の 1 つとして、作業車はグリーンナンバーの取得だった。JAF から払い下げてもらったレッカー車を含め規定の 5 台を集め、グリーンナンバーを取得。埼玉県トラック協会や埼玉県レッカー事業協同組合にも加盟させてもらい、そして平成 28 年

## KYOKUTO

開業時に未使用車の状態で購入した積載車。アオリレスなのでタイヤ固縛もしやすく、アムルックの所有する積載車の中でも一番稼働している。



## CENTURY212

こちらもJAFから譲り受けた車両。アムルックが受ける案件の7割以上が積載車で事が足りるが、横転や脱輪などレッカーブームが必要な案件も増えてきているので、レッカー車も必要だ。



勤務態勢は24時間稼働ではなく、午後0時から夜10時までの勤務となっている。その理由はJAFからの要請がこの時間帯が一番多く、逆に朝などはほとんど無かった時期が続いたという。JAFから配布されているタブレットの電源を入れると開局し、JAF指令本部より要請が入って来る。出勤し、タブレットを開局すると瞬間に要請が入り出勤。案件を終えると、すぐに要請が入るので何力所か用意してある待機所で休憩などを行っているという。

ではないが、新規参入するにあたりレッカー車などの保管場所などを探していたときに行き着いた場所だったようだ。そしてスタッフも根っからの川口市民はおらず、千葉や東京などから集まっているそうだ。今では事務所近くに引っ越してたスタッフもいるので、川口市を楽しめるポイントを開拓している。

には全日本高速道路レッカー事業協同組合（JHR）へ加盟した。

現在は小型レッカー2台、積載車4台、サービスカー1台を備えている。スタッフは全部で6名、44才の最年長者を始め平均年齢約30代前半と若い。元々、淡路島で生まれた佐近氏は幼少の頃に東京都江戸川区で育っていた。この川口は地元



今年から制服を変更し、日中でも目立つオレンジの2ピースにリフレクターのラインが腰回りや両腕、両足にプリントされているので、昼夜問わず遠方からも目立っている。



デザインサイトによるでロゴデザインを公募し、300通ほどの案が上がってきたという。その中でURLのドメインとしても使えるこのAMURUK（アムルック）が採用された。AMURUKの意味は、右から読むと?? 全てが柔軟なアイデアでスタッフ全員が仕事しやすい環境作りを佐近氏は楽しみながら経営している。



**■朝礼**  
出勤時から見た当日の交通状況や、道路工事箇所、体調や飲酒のチェックなどを行い、各待機所へとクルマを走らせる。



**■同乗訓練**  
約2ヶ月に1度の割合で、お互いに同乗して現場に向かう。作業もドライバー1人が行い、応対から作業までの一連の流れをチェックする。



**■安全性作業性向上**  
現場に行く車両がトラブルによって動かなくなること防ぐために、定期的に点検整備を行っている。スタッフの大半が整備士資格を取得しているので、心強い。

少数精鋭でもあるアムルックでは全員で行く社員旅行やBBQなどオンとオフを全員で楽しめる会社として考えているので、チームワーク作りを大切にしている。JAFや自動車整備業界から入社しているスタッフばかりなので、クルマの構造などは詳しく発想も豊かだ。

装備品など経費をかけられなかったころ、事故車の積載をウインチで巻き上げようとしてもフロントタイヤが喰ってしまい進まない。その時、要らないスノーボードを

フロントタイヤの下に敷き、ウインチを巻き上げると事故車を積載することが出来たとか、話を聞いていて逆転の発想など試行錯誤を楽しんで行っている感じがした。

案件は年間に約4,400件となり、そのほとんどはタイヤパンクなどによる搬送だ。至近距離から大阪や宮城など遠距離も行い、レッカー車での出勤はここ最近減ってきているが、クレーン付きの積載車は直ぐにでも欲しい1台という。横転引き起こしからの搬送などに

は便利な1台だといえるだろう。そして普段は小型メインなので大型車などのレッキングや横転などを見る機会が少なく、手順も間近でも見る事がないのでJHRに加盟。全国大会や支部の技術研修会に率先して参加し、様々な技術を憶えてスタッフにフィードバックしている。様々な装備品や装置などがついたレッカー車や積載車を勉強し、試行錯誤しながら着実に技術を高め、CS向上を図っていくと佐近氏。